

第1、 近況、雑感

1. 去年の能登地震とは大違いの年明け、トランプ劇場開幕か。少年時代のトランプは数少ない楽しみだったが、東西各国に厳しい判断を強いるこの劇場の、アメリカを分断しかねない予想困難な出し物は、楽しい国を作ろうと年頭に語る能天気な我が国の劇場主は、裏金問題や 103 万円も処理できずトランプより若いのに先行きが思いやられる。
2. 軍事予算の増額要請必至の日米安保協定の必要性は、我が国だけでなく、アジア全域ためにも重要性を増すと国民全部が再認識する必要が増してきた。原爆を落とされ、300 万人の同胞を殺されながら、何とか平和を保っての戦後 80 年、昭和 100 年を国民一人一人が思いを新たにす年でありたいと思うのは私だけではなかろう。
3. プーチンは 80 万人もの若者を戦死させ、かつ 100 万人もの有益な人材に国外逃亡されながら、中国、北朝鮮を巻き込んでまで戦争を続けているが、そろそろ物量的に継続できなくなって、年内には手を引くしかなくなるだろう。中国の独裁者親分について AI に聞くと、「話題を変えましょう」という答えが出るという笑い話を雑誌で読んだことがあるが、膵臓癌でもう間もなくだという噂が真実でない限り、この国の民主化も、不動産バブルも、大卒生の就職難も修正されることなく、ロシア以上に難しい隣国と知るべきだろう。
4. 政治家たちの不正続きで内政乱闘が続く我が国と一番近い朝鮮半島のニュースも、毎日続き終わるところを知らないが、これは国民性問題だろうか。1950 年の 38 度線の設定に始まる南北問題以来のことだが、終戦までのわが先達の植民化政策の誤りに由来することもありそう。私としてはこの朝鮮半島への日本技術投資に助けられたありがたい事件にかかわった嬉しい案件を、去年の松山交流会で思い出したので書きとめておきたい。
5. グループの生コン会社が国内セメントの出荷を止められて、倒産しかけた 40 年くらい前、当時の再建主・船舶主として名をはせた坪内寿夫氏に、道後温泉まで頼みに行き、韓国から、かつて日本の小野田あたりが技術提供をして建設した、あの少し黒いセメントを苫東の港まで運んでもらい、生産を続け助けられた、感謝した。この記憶は大切にしたい私の財産です。

6. 年始めなので、今年の抱負を書きます。昨年まで努力した“終活”を中止、断念します。作業を進めるほどに新しい問題が出てきて、それに時間をとられ、やり残したことに手がつけられなくなることに気づきました。今のところ健康には心配ない毎日ですが、自分の始末は自分では無理。関係者には申し訳ないが、ほどほどの処理資金を残すことで、後片付けをおまかせすることに変えたら、気持ちだけでも軽くなりましたので、自分のなかの残された日を「楽しい国」作りに使うことをめざします。
7. 昨日、森永卓郎さんが亡くなった。親しい方から<MINERA21>の提供のお話があり、お送りしたのがつい2か月前、たぶん試されることもなかったのではないかと。彼のお父上は獨協大の名誉教授で、私の長女夫婦の仲人をお願いしたこともあり、鋭い発言をもっと続けて欲しいと期待していただけに残念でならない。67歳とは若すぎる昇天。

第2、 今月の報告

- ・紅麴サプリ事件が映し出す健康志向社会のわな(松永和紀・書評)別紙

第3、 今月の本

- ・「血管の老化は「足」で止められた」(池谷敏郎、青春出版社 1,210円)
100歳まで切れない、詰まらない!
- ・「こうして、人は老いていく」(上村理絵、アスコム 1,540円)
衰えていく体との上手なつきあい方
- ・「土と脂」(デビッド・モントゴメリー、アン・ビクレ、築地書館 3,520円)
微生物が回すフードシステム
- ・「肥満の科学」(リチャード・J・ジョンソン、NHK出版 2,530円)
ヒトはなぜ太るのか
- ・「免疫力の新常識」(御川安仁、フォレスト出版 2,090円)
ドクターがクリニックで成果を出している74のメソッド

第4、 今月のことば

- 老後は、若き時より月日の早き事十倍なれば、一日を十日とし、十日を百日とし、一か月を一年とし、喜樂して、あだに日を暮らすべからず。(貝原益軒『養生訓』)
- 人間のプライドの窮極の立脚点は、あれにも、これにも死ぬほど苦しんだことがあります、と言い切れる自覚ではないか。(太宰治)
- 人皆生を楽しまざるは、死を恐れざる故なり。死を恐れざるにはあらず、死の近き事を和する忘るゝなり。(兼好法師)